

ヨーロッパ カンキツグリーニング病媒介昆虫を初めて確認

EUROFRUIT 2023年9月5日

当局は、キプロスでカンキツグリーニング病の最も致命的なアジア株を運ぶミカンキジラミの発見を確認

2022年1月にイスラエルで検出されたのに続き、カンキツグリーニング病(HLB)の致命的なアジア株を運ぶミカンキジラミの存在がEU域内で初めて確認された。キプロスでのこの昆虫の発見は、ヨーロッパ地中海植物防疫機構(EPPO)によって確認された。地中海地域とEUは、世界の主要な柑橘類産地の中で唯一、これまでのところカンキツグリーニング病を引き起こす細菌(Candida Liberibacter)が確認されていない。

スペインの柑橘類の産業団体であるインターシトラス(Intercitrus)は、ヨーロッパが現在二重の脅威に直面していると警告している。一方では、比較的穏やかなアフリカ型HLB株の媒介昆虫(Trioza erythrae)がスペイン北部とポルトガルの大西洋岸のほぼ全域に分布することがすでに知られており、そして今や、柑橘類にとって最も攻撃的で致命的な株を最も効率的に媒介するアジア型媒介昆虫のミカンキジラミが存在する。

インターシトラスはEUに対し、発生源を調査し、根絶対策に対して資金を提供し監督するよう求めており、「ミカンキジラミは検出がより難しいため、イベリア半島にすでに存在するアフリカ型の昆虫よりも心配である。それはヨーロッパの気候によりよく適応し、より広い温度帯で生育する。スペインで最も広く使用されているCarrizo台木でより容易に繁殖し、HLBの最も致命的な株を伝染させる。ミカンキジラミが侵入し、アフリカ型の媒介昆虫と共存した場合、すでにフロリダ州とブラジルで柑橘類の農園を荒廃させているHLBが、短時間のうちにスペインで検出される可能性がある」としている。

インターシトラスは、より耐性のある台木や品種を用いた生物学的防除方法の開発に関する研究を強化するよう求めるとともに、農場や国境でのより厳しい管理を望んでいる。

執筆者: マウラ・マクスウェル

エジプト 柑橘類の栽培面積が増加

FreshPlaza 2023年9月6日

エジプトの生産者、輸出業者及び関係当局は、次の柑橘類の季節に向けて積極的に準備を行っている。専門家の情報によると、需要が高まる中、耕作面積は大幅に増加している。

ジャナフレッシュ(Janafresh)社の事業開発責任者であるイブラヒム・ガダラ氏は本サイト(FreshPlaza)に対し、「エジプトの柑橘類の栽培面積は一貫して年間約5%増加している。しかし、今年は例年よりも柑橘類への関心が高いため、もっと増えると思う。栽培面積は非公式の数字で約18万2千ヘクタールだが、今シーズンは20万ヘクタールに達すると推定している」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

「予想される出荷量は、栽培面積の増加と、現在の営農活動の改善により、480~500万トンに達することもあり得る。昨シーズンのお荷量減少の問題は、生産者に営農の大幅な改善を促した。」

「エジプトの輸出量に関しては、来シーズン200万トンを超えると言っても過言ではない。これはいくつかの要因によるものである。第1に、エジプト産の柑橘類は昨シーズン、より多くの市場に浸透した。第2に、今年の南アフリカ産柑橘類のパフォーマンスの低さはエジプトが市場に食い込む余地を与えており、市場はエジプト産の出荷の開始を待っている。そして最後に、エジプトの食品安全当局は、より多くの輸出業者を支援するために多大な努力を払っており、輸出業者からは基準に完全に準拠するように厳格な監督下にある。」

柑橘類の果実のサイズがどうなるかはまだわからない。「昨シーズン発生した小玉化の問題は、本当に奇妙な現象であった。多くの人がそれを気候のためだとしており、地球温暖化が生産者にとって頭痛の種になっていることは我々の周辺では明らかである。開花期の気温の大きな変化は、樹上の果実の密度と大きさに影響を与える。生産者と専門家は現在、これらの新しい条件に適応するため、灌漑と施肥方法の調整に懸命に努力している。今年は適度なサイズの果実で、より良い出荷量が得られることを期待している。」(以下省略)

執筆者: ユーネス・ベンサイド